

2023年度 水稻防除暦

(株) 山東農園 [フリーダイヤル] 0120-09-9393 [FAX] 073-478-2655

時期		対象病害虫	薬剤名	倍数	使用基準	備考
育苗期	種子消毒	もみ枯細菌病・馬鹿苗病	スポンタックスターSE	200倍	浸種前/1回	24時間浸漬
		ごま葉枯病・いもち病				乾燥籾種1キロあたり処理薬量2L
		イシガハチナユ	スミチオン乳剤	1000倍	は種前/1回	※薬液浸漬後効果安定のために必ず風乾する
	播種直後	苗立枯病	ダコレート水和剤	400倍	は種時から緑化期/2回	1箱当り希釈液0.5Lを土壤灌注
	代かき	除草	兆(キザシ) 70アブル	500ml/10a	植代時～移植7日前又は移植直後	
本田期	田植当日	紋枯病・いもち病	箱將軍粒剤	1箱50g	移植7日前～当日/1回	水稻苗箱薬剤
		ニカメイチュウ・コブノメイガ				○サンスパイク箱粒剤（紋枯なし）
		ツマグロヨコバイ・イネゾウムシ				
	田植後 ○代かき時除草あり →田植後2-3週間目 ○代かき時除草なし →田植後1週間目	除草	粒剤 ホクト粒剤	3kg/10a	移植後5日～ノビエ3葉期 ただし、移植後30日まで	○田植同時除草処理には、忍（シルビ）粒剤1kg <u>中後期除草剤</u>
			液剤 ゴエモンF	500cc/10a	移植直後～ノビエ2.5葉期 ただし、移植後30日まで	○クリンチャーEW（ノビエ・キョウカスメバI）
			ゴエモンジャンボ	300g/10a		○クリンチャーバスME（ノビエ・広葉） ○バサグラン粒剤（広葉）
	発生時	スクミリンゴガイ	ジャンボたにくん	2kg/10a	移植後、ただし収穫60日前/2回	○ゲパード粒剤・ジャンボ（ノビエ・広葉）
	田植1ヶ月後～ 出穂前5日前	いもち病・内穎褐変病	ブラシンF	1000倍	7日/2回	○ニカメイチュウなどハマキムシ類の発生が多い場合は、パダン水1500倍を加用する。
		紋枯病	モンカットF	1000倍	14日/3回	
		ツマグロヨコバイ・ウンカ類 コブノメイガ・イナガ類	トレボンEW・乳剤	1000倍	14日/3回	
	出穂後10日～	いもち病	ブラシンF	1000倍	7日/2回	○秋ウンカにはアブロード水和剤1500倍を加用し、株元までしっかり散布する。 ○秋ウンカ多発園では、エミリアFL1000倍（収穫7日前/2回）が良い。
		紋枯病	バリダシン液剤	1000倍	14日/5回	
		カメムシ類・ウンカ類	ダントツ水溶剤	4000倍	7日/3回	

※太文字および下線部分が昨年の防除暦からの変更点になります。